

お 知 ら せ

平成30年9月6日
独立行政法人農林漁業信用基金
林業管理室

林材業の業況動向調査(平成30年度上期)の結果について

当信用基金では、全国の林材業の短期的動向を把握し、林業信用保証制度の適切な運営に資することを目的として、昭和51年10月以降、上期(4月～9月)及び下期(10月～翌年3月)の状況を継続的に調査しています。

今回は、平成30年度上期分として本年7月に調査した結果を別添のとおり、とりまとめましたので、お知らせいたします。

お問い合わせ先
林業管理室：久保田
TEL:03-3294-5581
FAX:03-3294-5595

林材業の業況動向調査結果の概要（要点）
（平成 30 年度上期）

平成 30 年 9 月
独立行政法人農林漁業信用基金

（調査概要）

- 独立行政法人農林漁業信用基金が、業務参考資料として、年 2 回実施。
- 今回は平成 30 年 7 月時点での上期（30 年 4 月～30 年 9 月）の現況・見通し、29 年度下期（29 年 10 月～30 年 3 月）の実績を調査したもの。
有効回答回収率は 38.6%（有効回答企業 193 社）
- 詳細情報は当基金の HP（<http://www.jaffic.go.jp/>）に掲載予定。

（凡例）

- ・ D I : 動向指数 (Diffusion Index)。プラス要因指数からマイナス要因指数を控除し算出
- ・ △○P : マイナス○ポイント
- ・ 前回（調査）：平成 29 年 11 月に実施した本調査（平成 29 年度下期調査）

1 売上げの見通し

売上げの見通し DI（増加－減少）は△23P となった（前回比△20P）。

2 資金繰り等の見通し

- (1) 資金繰りの見通し DI（好転－悪化）は△8P となった（前回比＋1P）。
- (2) 借入金調達難易度の見通し DI（容易－困難）は 8P となった（前回比＋5P）。
- (3) 借入金残高の見通し DI（減少－増加）は△16P となった（前回比△5P）。
- (4) 短期借入金の金利の見通し DI（低下－上昇）は△4P となった（前回比±0）。平均金利の実績は 1.94% となった（前回比△0.08%）。
- (5) 売上代金の回収状況及び仕入代金の決済状況については、
 - ① 売上代金の回収状況は「手形 50% 以下」が増加し、それ以外は横這いまたは減少した。
 - ② 受取手形のサイトの状況は、「3 ヶ月未満」と「3 ヶ月以上 4 ヶ月未満」の割合が増加し、それ以外は横這いまたは減少した。
 - ③ 仕入代金の決済状況は「全額現金」が増加し、それ以外は減少した。
 - ④ 支払手形のサイトの状況は、「3 ヶ月以上 4 ヶ月未満」・「4 ヶ月以上 5 ヶ月未満」が増加し、それ以外は横這いまたは減少した。

3 設備投資の意向

- (1) 設備投資の見通し DI（実施－不実施）は△27P となった（前回比＋9P）。29 年度下期に設備投資を実施した企業の割合は 31% であり、DI は見通しより 2P 少ない。
- (2) 設備投資の目的（上位 3 項目）は、「老朽化に伴う設備の更新」（57%）、「コスト低減等の合理化」（19%）「規模拡大のための増設」（10%）であった。

4 在庫量の見通し

- (1) 原木在庫量の見通し DI（過小－過大）は△16P となった（前回比＋9P）。
- (2) 製品在庫量の見通し DI（過小－過大）は 2P となった（前回比＋6P）。

5 純利益の見通し

純利益の見通し DI（増加－減少）は△22P となった（前回比△11P）。
地域別見通し DI は、「関東」が前回調査に比べ増加、その他の地域は減少し、全国平均では前回より 12P 減少した。

6 木材価格の見通し

- (1) 原木価格の見通し DI（下落－上昇）は 35P となった（前回比±0）。
- (2) 製品価格の見通し DI（上昇－下落）は 13P となった（前回比＋7P）。

7 当面する経営上の問題点

- (1) 経営上の問題点（上位 3 項目）は、「原材料仕入れ原価上昇」（21%）・「人手不足」（21%）、「売上不振」（19%）であった。

8 今後の経営の見通し及び事業方針

- (1) 今後の経営の見通し DI（楽－苦しい）は△16P となった（前回比±0）。
- (2) 今後の事業方針 DI（拡大－縮小・転廃業）は 6P となった（前回比△1P）。